



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

あなたも未来の名医の育成に参加されませんか。

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

医系総合大学である昭和大学は建学の精神である「至誠一貫」のもと、「真心と情熱をもって医療の発展と人類の健康増進と福祉に寄与する人材の育成」を教育の目標としています。本学の歯学生は卒業時に以下の6分野におけるコンピテンシー(卒業時に有する医療人としての能力)を身に付けていることが求められます(表1)。

昭和大学歯科病院の歯学生教育ではハイテク技術による患者ロボットやバーチャルペイシエント(コンピュータのプログラム上に構築された仮想患者)を用いた世界でも最先進の教育を行っております。その上で、さらに「人」を相手とする歯科医療を学ぶには「人」を実際に診療する経験は欠か

せません。皆様方におかれましては、どうぞ未来の名医の育成にご参加頂ければ幸いに存じます。診療の時間は長いと思います。診療中に学生の緊張が伝わってくることもあるでしょう。でも、どんな名医も臨床経験ゼロからスタートすることは古今東西一緒です。診療の各ステップごとに上級医がしっかりチェック致します。どうぞこの歯科病院から一人でも多くの名医が巣立ちますよう御協力頂けましたら幸いです。詳しくは担当医にお聞き下さい。



表1 本学歯学部生が卒業時に有していることを求められる医療人としての能力

| |
|---|
| <p>I. プロフェッショナリズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医師としての責務を自覚し、患者と心を通わせ、常に全力を尽くし、チーム医療を基に最善の全人医療を目指し、強い責任感と倫理観を有する。 2. 生涯にわたり自らの研鑽に専心し、社会性に富んだ技量のある歯科医師として、患者や地域住民に対して、歯科医療・保健サービスを提供できる。 <p>II. コミュニケーションとチーム医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他の医療人、スタッフ、患者、地域住民と会話や書面でコミュニケーションをとることができる。 2. 患者や家族、地域住民の生活や価値観を知り、良好な人間関係を構築することができる。 3. チーム医療の重要性を理解し、実践できる。 <p>III. 基礎医学・歯学の知識の習得と臨床への応用(生涯学習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学んだ基礎医学・歯学の知識を体系的に理解し、これを礎として実際の臨床に携わることができる。 2. 最新の知識や必要な情報を自ら獲得し、客観的・批判的な目を持って利用し、障害にわたって問題解決に応用することができる。 <p>IV. 医療面接と診察</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のプライバシーに配慮し、適切なコミュニケーションのもとに信頼関係を築き、患者の主訴や治療に対する希望、心身に関する病歴を聴取し、記録することができる。 2. 歯・歯周組織・口腔粘膜・顎関節など口腔・顎顔面の診察を行い、その状態を経時的に評価し、その結果を記録することができる。 3. エックス線検査や各種臨床検査を行い、その読影や評価ができる。 4. 小児・高齢者および障害者など特別な配慮が必要な患者の主訴や治療に対する本人や家族の希望、心身に関する病歴を聴取し、記録することができる。 5. 基礎疾患を持つ患者に対する、安心・安全な治療のため、全身状態を把握し、他の医療従事者と密な連携をとることができる。 6. 言語機能障害、摂食・嚥下機能障害の基本的なスクリーニング検査を実施できる。 <p>V. 診断と治療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般歯科治療において鑑別すべき疾患を考慮して、科学的根拠に基づき、病歴、臨床所見、エックス線所見やその他の診察・検査結果を関連付け、基本的な診断を行い、治療計画を立案できる。 2. 一般歯科診療の範囲を越えたと判断した場合には、必要に応じて指導医に相談の上、専門医と連携できる。 3. 代表的な口腔疾患(齲蝕、歯周疾患、不正咬合など)の予防を説明できる。 4. 齲蝕、歯髄疾患、根尖性歯種右縁を診断し、基本的な治療ができる。 5. 歯周病を診断し、基本的な治療ができる。 6. 歯質や歯の欠損に伴う審美障害や機能障害を診断し、基本的な歯の修復処置と欠損歯列の補綴処置ができる。 7. 典型的な口腔粘膜疾患、顎骨疾患や顎関節症を診断できる。 8. 口腔領域の基本的な外科手術を介助できる。 9. 先天異常や発育異常に伴う歯・口腔・顎顔面の発育障害や乳歯列、混合歯列、永久歯列の各時期に生じた後天的な障害、機能的異常の基本的な診断ができる。 10. 小児・高齢者および障害者など特別な配慮が必要な患者の診療に際して、それぞれの状況に適した対応・介助ができる。 11. 口腔顎顔面領域の痛みや心理的苦悩に対して基本的な配慮ができる。 12. 一般歯科診療で遭遇する緊急事態を防止するための方策を立てることができ、基本的な対応ができる。 13. チーム医療の知識と技能を基盤として、医師、薬剤師、看護師など他の医療職と連携してチーム医療に参加できる。 14. 地域連携(病診、病病連携)の歯科医療を理解でき、参加できる。 <p>VI. ヘルスプロモーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣と顎・口腔疾患の関連性について患者に適切な助言ができる。 2. 患者とその家族に保健教育と包括的なプライマリケアができる。 3. ヘルスプロモーションの考えに基づいて、社会で生活する個々の人にあった口腔の健康の維持を心身の健康との保わりにおいて支援できる。 4. 地域社会において、ヘルスプロモーションに基づいて、個人、家族、地域住民の口腔の健康を改善する指導計画を立てることができる。 5. 食生活について、適切な助言ができる。 |
|---|

口腔リハビリテーション科 紹介

口腔リハビリテーション科は、摂食・嚥下障害、発音障害、いびきや夜間の無呼吸、口腔筋機能療法、フェイスニングに関する治療・訓練を行っております。

摂食・嚥下障害の対応：脳梗塞後などの後遺症や口腔がんの術後などで食べられなくなった方、ご高齢による廃用症候群などで胃瘻を作られた方、脳性麻痺や精神発達遅滞などにより生まれつき機能障害を持つお子さんなど、幅広い年齢層の方々を対象として様々な訓練や指導を行っております。場合によっては摂食補助装置を作製して装置を併用したリハビリも行えることは歯科ならではの利点です。また、入院下での短期集中嚥下訓練や、通院困難な方の在宅や施設への訪問診療も積極的に行っております。

発音障害は、歯列・咬合異常、舌小帯短縮症、舌などの口腔癌術後や脳卒中後など様々な原因で起こります。また、形態的な異常は特にないけれども言葉を獲得する過程で誤った発音を覚えてしまった方(機能性構音障害)もお子さんから成人の方まで多く言語訓練を受診されています。特に発音補助装置に関しては、調整する際などに言語聴覚士と歯科医師がお互いの意見を出し合いながら細やかな調整を行っているところが他院にはない当科の特徴といえます。

いびきや夜間の無呼吸(閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群:OSAHS)の対応：医科との連携を取りながら口腔内装置(マウスピース)による治療を行っております。OSAHSの診断が医科で下されていないと歯科では治療できない方も、是非ご相談ください。

口腔筋機能療法(MFT)、フェイスニングは、指しゃぶりや舌癖などの異常習癖に対するトレーニングや、より魅力的な笑顔をつくるためのトレーニング(フェイスニング)を筋機能療法士が行います。

口腔リハビリテーション科の診療スタッフは、歯科医師6名、言語聴覚士2名、筋機能療法士1名の専任スタッフに加え、口腔リハビリテーション医学講座大学院生5名が診療を精力的に行っております。

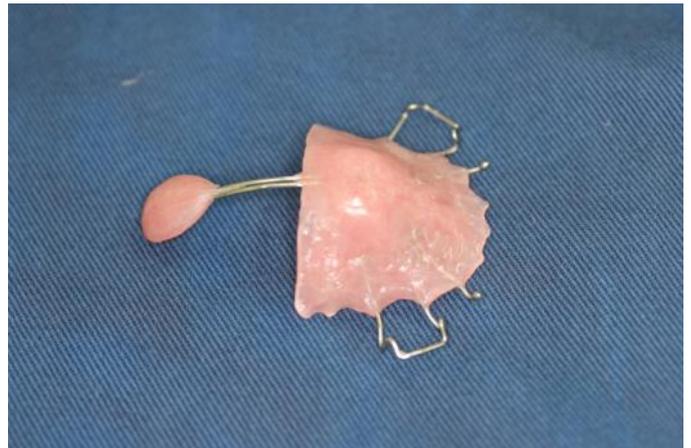
「食べる・飲む・話す・寝る・笑う」は人が楽しく生きていく上で基礎となる部分だけに、いつまでも維持できるように、失った時には出来るだけ病前の状態に近づけるように、スタッフ一同丁寧に診察させて頂きたいと思っております。何かお困りのことがある方は、どうぞご連絡下さい。

また、当科は同窓、他大学卒に関わらず、医療従事者・医療系学生を対象として広く見学・研修を受け入れております。当科の外来見学などにご興味がありましたら、お気軽にご質問・ご相談下さい。

もっと詳細をお知りになりたい方は口腔リハビリテーション科ホームページ

<http://www.okuchidetaberu.com/>を是非ご覧下さい。

口腔リハビリテーション科 講師 横山 薫



軟口蓋挙上装置(PLP)



口腔リハビリテーション科スタッフ

むし歯により歯の部分的な欠損、過去に治療されたメタルの部分的な詰め物に対して審美的な詰め物を希望される患者さんが多くおられます。その場合、審美的な修復材料としてセラミックスが用いられることが多くなっています。近年、デジタル技術が歯科に欠かすことのできないものになっており、Digital Dentistry(デジタルデンティストリー)と言われるようになってきました。今回、当科で用いられている歯科用CAD/CAMシステムについて御紹介します。

CAD/CAMとはコンピューター支援設計・支援製作を意味するComputer Aided Design/Computer Aided Manufacturingで歯科医療に応用されました。歯を削った後に口腔内を直接光学印象カメラ(図1)によって撮影することによりモニター画面に患部の歯列を再現することができます。そのため、従来の型取りする材料による不快感を軽減することが出来ます。三次元データやシミュレーション情報を瞬時に処理することによって患者さんの歯にあった機能的形態をデザインした修復物をコンピューターの画面上に構築することが出来ます(図2)。病院内に設置されているミリングマシン(図3)と呼ばれる機械が、コンピューターで設計されたデータをもとにセラミックブロックを削り出し約15分でセラミックス修復物が完成します。これまでに行われてきた製作過程が大幅に削減することにより、症例によっては即日修復(ワンデートリートメント)が可能になりました。患者さんにとって仮の詰め物を必要とせず、来院回数も少なるため負担が軽減される利点を特徴とします。また、セラミックス修復物を適切な接着操作により接着させることで安定した審美治療を獲得することができます(図4)。ただ、製作が困難な症例、色合わせが難しい症例では歯科技工士さんが製作するセラミックス修復物で行う場合もあります。また自費診療となりますので保険適応外で

す。ご不明な点がございましたら歯科医師にご相談してください。



図1 光学印象カメラ



図2 セラミックインレーの設計



図3 ミリングマシン



術前



セラミックインレー装着後

図4 セラミックインレー修復

節電のお願い

皆さまお気づきですか？

1階総合受付フロアの照明器具を蛍光灯からLEDに入替えを行いました。少しく暗かったフロアが明るくなり、節電にもなっています。

病院広報委員長 高橋 浩二



明るくなった1階総合受付の様子

節電のお願い

当院では節電に取り組んでおります。

患者さまにはご不便・ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

当院の節電への取り組み

- ①院内照明の照度の引き下げ、または消灯。
- ②空調温度の引き上げ(冷房時)・引き下げ(暖房時)、または停止。
- ③電力逼迫時のエレベーターの運行制限。

Cool Biz
冷房の設定温度は
28°C

昭和大学は、全施設一丸となって節電対策に取り組んでおります。
皆様のご理解とご協力をお願い致します。

実施期間: 5月1日(木)~9月30日(火)
(気象条件により、期間は変更する場合があります。)

学校法人 昭和大学

患者さん対象 インプラント治療に関する説明会のお知らせ

インプラント治療について、わかりやすく御説明いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

第28回

日時: 平成26年6月24日(火)正午~午後1時

第29回

日時: 平成26年7月22日(火)正午~午後1時

会場: 昭和大学歯科病院 6階 第2臨床講堂

参加費: 無料 当日直接会場へお越し下さい。

(事前申し込み不要)

演者: 昭和大学歯科病院 インプラントセンター

センター長 尾関 雅彦 教授

事務課



編集後記

私は昭和大学歯学部の一回生として昭和58年に卒業しましたが、学生時代は歯科病院にいられた患者さんを治療させて頂きました。歯科医師になるためにはやはり患者さんの実際のお口を診させて頂く、治療させて頂くことは欠かせないことだと思います。

皆様に未来の名医を育てて頂きたいと思います。御協力を賜りましたら幸いです。

(K.T)

